ノート

# 平成２５年度夏季インターンシップの取組実践について

吉澤　茉帆
山口県立大学　学生支援部
松尾　　洋
山口県立大学　共通教育機構
人見　英里
山口県立大学　学生支援部

# The Practice of the Internship Program in 2013 at Yamaguchi Prefectural University

Maho YOSHIZAWA
The Division of Student Affairs, Yamaguchi Prefectural University
Hiroshi MATSUO
The Division of General Education, Yamaguchi Prefectural University
Eri HITOMI
The Division of Student Affairs, Yamaguchi Prefectural University

## Abstract

In this article, I report the status of the implementation and show the result of survey on the internship program at Yamaguchi Prefectural University (YPU), and discuss about the effectiveness of the internship program for career education. In 2013, the new internship program has been introduced at YPU; the traditional type is 5 days internship to gain a workplace experience, and the new one is longer internship to do hands-on activities in real workplace. The total number of students who have participated in t the internship program is 36, and they have gained real work experience. The result of survey showed that the internship program was very useful and meaningful for students. But, on the other hand, some agendas have been identified and, there is a need to improve the internship program.

Nowadays in Japan, internship programs are to be improved qualitatively and quantitatively. It is important to enrich the contents of internship programs in higher education.

Keywords：Internship, Career Education
キーワード：インターンシップ、キャリア教育

## はじめに

本稿では、インターンシップの全国的な現状を概観し、山口県立大学において開講されている「インターンシップ」の授業を中心に、今年度の夏季休業期間中に実施されたインターンシップの取組実践を概説する。2013 年度夏季は 37 名がインターンシップに参加した。現在のインターンシップには質的および量的な充実が求められる。そこで、本学でもそうした観点からインターンシップの取組について見直すことにより、今後のインターンシップの内容を充実させることを目指している。

## １．日本におけるインターンシップの現状と課題

表1
インターンシップ実施状況の変化（文部科学省(2013)を元に吉澤作成）

| | 平成10年度 | 平成19年度 | 平成23年度 |
|---|---|---|---|
| 単位認定あり | 23.7%（143校） | 67.7%（504校） | 70.5%（544校） |
| 体験学生の割合 | 0.60% | 1.80% | 2.20% |

わが国におけるインターンシップの本格的な取り組みは、1997 年に当時の文部省・通商産業省・労働省の三省合意に端を発している。三省による定義では「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」(「インターンシップの推進にあたっての基本的考え方」1997 年 9 月 18 日）とされている。すでに開始から 16 年を経て、多様なインターンシップが展開されている。

インターンシップは現在、キャリア教育において、「「学校教育と職業生活との接続」を実現するための一体化した不可分の教育プログラムとして設計・実施することが求められる」状況にある（古閑 2011、p.12)。その期間や内容については、多様な展開がなされている。働くということを体験し、就職を希望する業種・業界に対する理解を深めるものもあれば、採用を目的として企業が主催する短期間の体験や仕事の理解のためのものや、意欲的な経営者の下で半年以上の長期間に亘って会社のプロジェクトに参画することにより働く上での考え方や行動特性の習得をめざすものもある。

自社で 10 年近く有償インターンシップの受入を行い、会社の事業拡大に活用するとともに社員として採用も行ってきた黒越は、インターンシップを通して、「大学を卒業して、いざ就職するときに、自分で納得して働けるか」が重要であるとしている。納得して働くためには、「働く面白さを体験して、その中で（中略）自分が磨かれている人、仕事に取り組む姿勢ができている人」であることが必要である（黒越　2008)。したがって、インターンシップの他にもアルバイトやサークル等の活動もそうした学びの機会となる可能性が十分にある一方で、インターンシップについても単に参加すれば仕事に対する姿勢が身につくわけではない。インターンシップに参加する学生が事前に職場において学ぶ心構えや職場について知り、事後には学んだことを大学での学修に活用することによって、学びは充実したものとなる。

したがって、多様なインターンシップが展開される現在、インターンシップを充実した学びの契機とするためには受入側である産業界の受け入れ態勢や内容に加え、送り出す大学での教育、さらにはコーディネート機関も含めた産業界と大学との連携・協働が重要となっている。

## ２．インターンシップの参加状況

本学の夏季インターンシップの参加方法には、共通教育科目として全学に向けて展開される「インターンシップ」という授業を履修し、単位の付与を受ける「正課」と、授業履修のない、すなわち単位の付与を受けない「課外」の２つの参加の仕方がある。2013 年度の正課「インターンシップ」は、28 人が履修し、単位を修得しない「課外」受講者１名と併せて計 29 名が事前指導を受け、延べ 30 名（1 名は２つの事業所でのインターンシップを経験）が 5 日間程度の業務体験型のインターンシップを経験した。学年の内訳は、1 年次生が６名、２年次生７名、３年次生 15 名、来春卒業しない４年次生が１名であった。

さらに、今夏は「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」への取組もあり、本学独自でコーディネートを行った４社で、７名がインターンシップに参加した。いずれも９月以降に開始され、７名のうち、１名は２週間以内の短期間、３名が３週間地域に滞在する中期間、３名が３か月以上にわたってコミットする長期的なものとなっている。

表２では、今夏の受入企業を示した。１～ 22 の事業所は山口県インターンシップ推進協議会によるコーディネートで受入がなされたものである。この協議会には、山口県内のすべての高等教育機関が加盟しており、協議会のコーディネートにより県内高等教育機関及び山口県出身で県外の大学等で学ぶ学生等に県内各地域の事業所での５日間程度のインターンシップが提供されている。インターンシップの申込及び研修先の決定方法は以下の通りである。まず、学生が協議会ホームページ上の申込フォームあるいは申込用紙に希望の研修先（協議会のホームページにアップされている協力企業・事業所から選択)を３つまで選択するとともに希望する研修期間、日数、志望理由等を書き、協議会に送付する。これを受け取った協議会のコーディネータが学生の希望

した協力企業に依頼し、研修先が決定される。協力企業・事業所は600社ほどあり、参加学生も年間400名程度となっており、全国的に見ても大きな規模での実施に成功している協議会である。二重線以下の23～27の５社のうち島根県信用保険協会は公募によるものであり、残り４社が先述の本学学生支援部が独自にコーディネートを行ったものである。

申込時の志望理由や希望研修先からうかがえることとして、将来就職したい業界だけでなく、「アルバイトではできない経験をしてみたい」という希望も多くみられた。本学では、官公庁や公立図書館、公立研究機関等でのインターンシップを希望する者も多く、上記の理由から、官公庁やそれに類する事業所への希望が集まったと考えられる。山口県インターンシップ推進協議会の協力事業所はバリエーションに富んでいることから、学生は多様な業種・業界を経験することができる。しかし、知名度の高い企業や業界に希望が集中する場合もあり、事前の学習においてはそれぞれの業種・業界についてインターンシップで学ぶことの意義についても伝えることによって、学生の視野を広げることが必要である。

表2　平成25年インターンシップ受入先一覧

| | 受入先事業所名 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 山口県庁 | 2 |
| 2 | 山口労働局 | 1 |
| 3 | 山口市役所 | 1 |
| 4 | 山口県立山口図書館 | 2 |
| 5 | 山口県農林総合技術センター | 1 |
| 6 | やまぐち県民活動支援センター | 2 |
| 7 | 公益財団法人　山口県国際交流協会 | 2 |
| 8 | 公益財団法人　宇部市常盤動物協会 | 1 |
| 9 | ㈱JTB中国四国　山口店 | 2 |
| 10 | ㈱JTB中国四国　宇部店 | 1 |
| 11 | サンデン旅行㈱　山口支店 | 1 |
| 12 | ㈱近畿日本ツーリスト中国四国　山口支店 | 1 |
| 13 | サンデン交通㈱航空事業部 | 1 |
| 14 | 農水フーヅ㈱ | 1 |
| 15 | ㈱MIHORI | 1 |
| 16 | ㈱湯田かめ福 | 1 |
| 17 | ホテルニュータナカ | 1 |
| 18 | ㈱イズミ　ゆめタウン山口 | 3 |
| 19 | ㈱ぷらざFM（FMわっしょい） | 1 |
| 20 | 山口ケーブルテレビジョン㈱ | 1 |
| 21 | 医療法人協愛会　阿知須共立病院 | 1 |
| 22 | 宇部フロンティア大学付属幼稚園 | 1 |
| 23 | 島根県信用保証協会 | 1 |
| 24 | レノファ山口 | 3 |
| 25 | ㈱下関酒造 | 1 |
| 26 | オイシーフーズ | 1 |
| 27 | ジブンノオト | 2 |
| | 合計 | 37 |

## ３．正課「インターンシップ」の学びと満足度－アンケート結果から

山口県インターンシップ推進協議会のコーディネートによってインターンシップに参加した学生には、研修終了後に協議会からのアンケートが配布される。アンケートは、単一回答選択式で参加動機、インターンシップで得られたこと、インターンシップの満足度を聞き、さらに意見・要望等の自由記述をさせるという形式となっている。本学では、毎年、10月１日前後の後期開始日に夏季インターンシップ公開報告会を開催しており、報告会終了時にインターンシップを行った者全員を対象としてアンケートに回答させている。このアンケート結果から、本学で「インターンシップ」を履修した学生のインターンシップでの学びと満足度について、見てみることとする。

表３「インターンシップで得られたこと」においては、いずれの項目もほとんどの学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、学内とは異なる学びを得ていることがうかがえる。特に「強くそう思う」の割合が高かったのは、「4　学生と社会人の責任の違いを感じた」および、「13　コミュニケーションの大切さを感じた」という２項目の76.0％と、「15　挨拶の大切さを感じた」の72.0％であった。過半数の学生が「強くそう思う」と回答した項目は、「3　働くことのやりがいや充実感を知ることができた」「8　仕事に対する興味や関心が高まった」「11　連携や協調性の大切さを知った」「12　マナーや常識の大切さを感じた」「14　主体的に取り組むことの大切さを感じた」という５項目であった。

これらの内容については、インターンシップ報告会で発表を行った学生が特に強調していたこととも合致している。2013年度のインターンシップ報告会では、インターンシップに参加した29名のうち９名が５分間の発表と３分間の質疑応答を行ったものである。学生の多くがインターンシップを通して同様の学びを得たと見ることもできるが、アンケート回答直前におこなわれた報告を聞いて、他の参加学生にも共感を得た、あるいはそれぞれの経験が報告によって同じように意味づけられた可能性も指摘できる。こうしたことからも、報告会等の形式での、経験の共有の重要性がうかがえよう。

一方で、「強くそう思う」の割合が比較的低い回答にとどまったのは「1　働くことがどういうことか実感できた」「5　学んできたことが現場でどう活かされているのか知ることができた」という２項目である。さらに、「そう思わない」「全くそう思わない」の回答が比較的多かったのは、「5　　学んできたことが現場でどう活かされているのか知ることができた」「9　業界・職種に対する理解が深まった」「10

視野を広げて就職先を考えるようになった」という３項目であった。

山口県インターンシップ推進協議会のコーディネートによるインターンシップは、いずれも５日間程度のものであると同時に、参加学生数も全体で数百名と非常に多い。そうした状況から、研修先の希望がかなわない学生や、なかにははじめから就職を希望する職種・業界をあえて選択しないという学生もいる。そうしたことから、大学での学びとのつながりや就職先を見据えての仕事について、理解を深めることにならなかった可能性も考えられるが、この点については今後より詳細な分析が必要である。

次に、「インターンシップの満足度」について見ていくこととする。いずれの項目についても「満足している」「どちらかといえば満足」の回答が合わせて80％を超えており、ほとんどの学生はインターンシップに対して満足していると考えられる。しかしながら、一方では少ないながらも「満足していない」と感じている学生も存在するため、研修後のフォロー等の対応が必要である。

また、「2　社員との交流・コミュニケーションについて」、比較的満足していない学生が他の項目と比較して多くなっている。申込時に提出する志望理由において、「働いている人の声を聞いてみたい」という記述をする学生が多いことからも、インターンシップでは仕事を体験するだけでなく、社員とのコミュニケーションをとることが学生のニーズとしても高いと考えられる。

## ４．まとめと課題

本稿では、山口県インターンシップ推進協議会のコーディネートによるインターンシップ参加学生によるアンケートの回答を集計し、今年度の実施状況について概説した。

アンケートの結果や報告会等での学生の言葉からは、インターンシップという機会が学生にとって有

| 表3　インターンシップで得られたこと(%) | | 強くそう思う | そう思う | そう思わない | 全くそう思わない | 合計%（実数） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 働くことがどういうことか実感できた | 32.0 | 64.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 2 | 働くことの厳しさを理解することができた | 40.0 | 52.0 | 8.0 | 0.0 | 100(25) |
| 3 | 働くことのやりがいや充実感を知ることができた | 52.0 | 44.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 4 | 学生と社会人の責任の違いを感じた | 76.0 | 20.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 5 | 学んできたことが現場でどう活かされているのか知ることができた | 36.0 | 44.0 | 12.0 | 8.0 | 100(25) |
| 6 | 学習意欲が高まった | 40.0 | 52.0 | 8.0 | 0.0 | 100(25) |
| 7 | 自分に足りないものに気付くことができた | 40.0 | 56.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 8 | 仕事に対する興味や関心が深まった | 52.0 | 36.0 | 8.0 | 0.0 | 100(25) |
| 9 | 業界・職種に対する理解が深まった | 40.0 | 44.0 | 12.0 | 0.0 | 100(25) |
| 10 | 視野を広げて就職先を考えるようになった | 40.0 | 48.0 | 12.0 | 0.0 | 100(25) |
| 11 | 連携や協調性の大切さを感じた | 56.0 | 40.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 12 | マナーや常識の大切さを感じた | 68.0 | 32.0 | 0.0 | 0.0 | 100(25) |
| 13 | コミュニケーションの大切さを感じた | 76.0 | 24.0 | 0.0 | 0.0 | 100(25) |
| 14 | 主体的に取り組むことの大切さを感じた | 60.0 | 36.0 | 4.0 | 0.0 | 100(25) |
| 15 | 挨拶の大切さを感じた | 72.0 | 28.0 | 0.0 | 0.0 | 100(25) |

| 表4　インターンシップの満足度(%) | | 満足している | どちらかといえば満足 | どちらかといえば満足していない | 満足していない | 合計%（実数） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 体験した仕事の内容について | 56.0 | 32.0 | 8.0 | 4.0 | 100(25) |
| 2 | 社員との交流・コミュニケーションについて | 52.0 | 32.0 | 12.0 | 4.0 | 100(25) |
| 3 | 事前指導（説明会・マナー講習など）について | 60.0 | 32.0 | 4.0 | 4.0 | 100(25) |
| 4 | 今回のインターンシップを総合的に評価して | 52.0 | 40.0 | 4.0 | 4.0 | 100(25) |

意義なものであり、就職先の理解や視野の広がりにつながるものであることが確認できた。

今後は、学生が職場においてより多くのことを学べるよう、事前と事後の学習を充実させ丁寧に指導することが必要である。例えば、事前学習では研修先の選択時におけるより詳しい情報提供を行うことやインターンシップの目的を明確にしてモチベーションを高めるための工夫をするといったことがある。事後においても、学生同士の意見交換を行い、報告のレポートに関して教員や学生同士で議論をしたり、添削を行うことで学生の学びをさらに高めることができるだろう。

また、本稿ではほとんど触れなかったが、今後、課外での中長期的なインターンシップについても、今年度の試行的な取り組みをもとに、キャリア教育の意義を示していきたい。

## おわりに

企業の人事担当として、「働く」ことについて考え続けている中澤は、仕事を乗り越えるべき「壁」ではなく、それを通して社会を見る「穴」であるという「しごと穴」という考え方を提唱している（中澤、2011）。「しごと穴」とは、すなわち「他者意識」をもって働くということである（中澤、2013）。自分にとってその仕事が向いているか、自分の生活に利益をもたらすかという「自分目線」ではなく、その仕事によって社会や他者に何ができるのか、どういう意味があるのかという視点を持つことにより、より広い視野を得ることができ、働くことの意味も見えてくる。このように、インターンシップを通して仕事に対する理解を深め、社会で自分の能力を向上させ活躍できる学生を育てていくことが必要である。そのためには、大学でのインターンシップの事前事後の教育の充実をはかると同時に、産業界との協働のもとに学生を育てられるような産業界と大学間の信頼関係を構築していくことが重要となっている。全国的なインターンシップの促進の流れのなかで、本学においてもより充実した就業体験を学生が体験できるよう、インターンシッププログラムの提案や事前事後教育を提供していきたい。

## ＜参考文献＞

古閑博美編著『インターンシップ―キャリア教育としての就業体験―』学文社、2011 年。

黒越誠治『使えるインターンシップ本　良い会社・悪い会社の見分け方』日経 BP 社、2008 年。

文部省・通商産業省・労働省「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」1997 年 9 月 18 日。

文部科学省（体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けたインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議）「「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について」意見のとりまとめ」平成 25 年 8 月 9 日。

中澤二朗『「働くこと」を企業と大人にたずねたい　これから社会に出る人のための仕事の物語』東洋経済新報社、2011 年。

中澤二朗『働く。なぜ？』講談社、2013 年。

リン・オールソン著、渡辺三枝子他訳『インターンシップが教育を変える　教育者と雇用主はどう協力したらよいか』雇用問題研究会、2000 年。

山口県インターンシップ推進協議会 HP（URL：http://www.y-internship.com/　最終閲覧日：2013 年 12 月 18 日）